

# オープン5年目で来館者1万人

## 新たに昭和、令和の東京五輪特集

御坊商工会議所が情報発信拠点として平成28年10月に中町2丁目商店街に開設した「御坊寺内町会館」が先月、来館者1万人を達成した。新型コロナウイルスの影響で昨年から来館者の減少傾向が続いているが、感染予防対策を徹底しながら新たに昭和、令和の「新旧東京五輪特集」を始めたほか、秋の和歌山誕生150年、国民文化祭わかやま2021に向けての各種イベントに協力し、御坊の魅力発信に努める。

### 御坊寺内町会館



片山館長から記念品を受けた山本さん（左）



新たに始めた「新旧東京五輪特集」

1万人目となった御坊市から御坊市のカルタ、みー油詰め合わせ、再生ガラス出甕で紀の川市在住の山本「やちゃん」バッジ、芋焼酎、チックプレートとマグカップ、紀米代さんに、片山館長「紀州宮子姫」地方産産物「フセツ」、名産市民第1号

特設品ではホテル内の売店に「ひたかブランド」ブースを設けるとともにECサイトで認定品を販売。15日から南高梅、金山寺味噌、黒竹民芸品、みかんジュース（ゆら早生）の販売を始め、順次品数を増やしていく。今後、ホテルでの「ひたかマルシェ」イベ

・和歌山県民の歴史、文化、スポーツなど記念品を贈った。山本さんは「本当にびっくりしました。寺内町会館は初めてですが、1万人目の記念品をいただき、ラッキーでした。懐かしい市内の写真や御坊祭の風景をいただき、和歌山さんの業績を知りました。コロナが落ち着いたら友人を誘って、また大好きな御坊のまちを訪れたい」と話した。

会館に開設した和歌山誕生150年では和歌山誕生150年やハネルなどを展示して1964年の東京オリンピック誘致に貢献した功績を顕彰しているほか、御坊祭の祭礼道具や県無形文化財指定第1号の数置踊り、紀州鉄道など順次展示。「御坊の歴史・伝統・文化特集」「偉人コーナー」「学校教育・地域振興コーナー」もあり、観光客や地域住民、児童生徒らが訪れている。

オープン後は年間約2500人が訪れ、2年目には5000人を超えたが、昨年来のコロナ禍で来館者の減少傾向が続いている。今後、ワクチン接種が進めば観光客増加が予想されるため、感染予防対策を徹底しながら新たな展示企画を考えており、まず2月開幕の東京五輪に併せて昨年からの延期していた「新旧東京五輪特集」を始めた。

前回の東京五輪で紀北地方で行った聖火リレーランナーを務めた田端俊一さん、美浜町和田、今年4月に市内で行った聖火リレーランナーを務めた木村波優美さん、御坊市商の写真、和歌山県民の歴史、文化、スポーツなど記念品を贈った。

贈られた東京五輪ペナント、個人所有のオリンピック記念コイン、ホスター、ペナントなど各種グッズ、わかやまスポーツ伝承館で展示している県内出身オリンピック選手のメダルやユニフォームなど関連写真を展示している。

塩路泰弘・御坊商工会議所専務理事、片山館長は

「今後は和歌山誕生150年、国民文化祭に向けての各種イベントにも協力していきたい。御坊市の魅力をより一層身近なものと感じていただけるような会館運営を心掛けたい」と話した。開館日は毎週火・金・土・日曜日と祝日。開館時間は午前11時から午後4時まで。